

第2回 校長会議あいさつ

R.6.4.17 稲垣

色とりどりの若芽が初夏に向かう山を染めています。昨日の市教研総会では、高木新会長のもと本年度の研究組織がスタートしました。子どもたちのために、「楽しく力のつく授業づくり」に邁進されることを期待したいと思います。

本日は、二点についてお話しします。

一点目は、学校教育における学校図書館の在り方についてです。学校図書館は、近年その重要性が注目され、本市でも図書館司書の活用等によって、子どもたちの本に対する興味関心を高め、多読が促されるように、着実に改善されてきました。学校図書館の役割は、子どもたちに「豊かな心と確かな学び」を提供することとされています。「豊かな心」については、物語やエッセイなどの読み物が、子どもたちの情操やものの見方考え方を育てます。一方、「確かな学び」については、百科事典はじめ、主に調べ学習で使われる書籍が担ってきました。文科省の通知の中でも知の情報センターとしての役割が示されているところです。しかしながら、GIGAスクールの進展により、学校図書館の在り方が少し変わりつつあると思います。例えば、タブレットの普及は、調べ学習における図書館の活用を減少させていきます。図書館とタブレットをそこから得られる情報で比較した場合、使い回しの書籍に比べ、一人一台のタブレットの効率性は言うまでもなく、情報の総量や先進性、即時性においては格段の差があります。ただし、インターネット検索による情報収集には、真贋混交の氾濫する情報の中から、必要かつ正当な情報を選択し、再構成する情報処理能力が求められます。そしてその能力は、文科省の推進するICT教育の目標の一つとなっています。

このように考えてくると、学校教育において、これからの図書館の役割に特に期待したいことは、子どもたちの豊かな心や情操、ものの見方や興味関心を育むことを中心に据えて、図書館運営に尽力することです。そのための環境づくり、図書購入、関連のイベント等に工夫を凝らしていただきたいと思います。学習指導要領の下、全人的な教育を志向する中で、知と情のバランスを保つため、ICT教育が進展するほど、その対極としての心の教育の重要性が増してきます。図書館教育は、そのための大きな役割の一つを担うことになると思われます。さらには、図書館には、子どもたちが一人になって自分を見つめたり、ほっとできる居場所という価値もあります。このような学校図書館に発展させていきたいと考えています。

二点目は、リーダー養成塾についてです。白川郷という豊かな自然の中で、初めて出会った同級生と仲間になって課題にチャレンジする経験を通して、人間関係形成力やコミュニケーション能力を育みます。さらには、同じ志をもつ仲間とともにリーダーとしての在り方を考える中で、自分を見つめ、高めていこうとする意志を強くします。後ほど今年度の募集について説明しますが、校長先生方からも強く勧めていただきたいと思います。